

平成 27 年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童像など）

仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識を持ち、自ら考え、進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき、共に伸びようとする子ども

強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成」

子どもたちが心身ともに健やかに育つことを目指し、学校・保護者・地域が協働し、生き生きとした活気あふれる学校づくりに努める。そのため、人間尊重の精神を基盤とし、家庭・地域の教育力の活用を図りながら、高い指導力を備えた教師による豊かな教育活動を展開し、子どもたちの人間力を豊かに育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）○学習指導の充実

確かな学力を身に付け、実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

（2）教師力の向上

教職員として使命感や誇りを持ち、自己研鑽に励み、協働しながら教師集団の総合的な指導力を高め教師力の向上に努める。

（3）特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

（4）心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け、気力や体力を育む教育活動の充実を図る。

（5）豊かな心の育成

自己有用感を高めるとともに、思いやりの心を持ち、自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

（6）人間力の育成

社会的自立の基礎を培い、社会の変化に対応しながら力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

（人間力：社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力）

（7）信頼される開かれた学校づくりの推進

子どもは地域の中で育むという視点を持ち、学校、家庭、地域との連携、協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。

（8）危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに、落ち着いて生活できる潤いのある環境の整備を推進する。

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導をして」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 「明るく活気のある雰囲気の中で、子どもが生き生きと学習・活動する学校」 － 明るく、楽しい、活気に満ちた学校 － 【学 習 指 導】 「集団の中で共に学び高め合う児童の育成」 － 進んで問題を追究し、友達と伝え合い、自分の考えを深める算数科学習 － 【児 童 生 徒 指 導】 ○「互いのよさを認め、豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成」 － あいさつ運動、読書活動の推進を基盤として － 【健康（保健安全・食育）・体力】 「自らの健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成」 － 休み時間の外遊び、プチトレーニングの取組を通して －

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
教 育 全 体 の 状 況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	①○相手を思いやる気持ちを育てる取組の推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。 ②いじめゼロ強調月間には、児童会の「いじめゼロ集会」を実施するとともに、兄弟学年での年間を通したなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流などにより、相手を思いやる気持ちを育てる取組を推進する。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答は89.4%で、数値指標よりもやや下回った。あいさつ運動は、計画委員を中心に、クラス単位で実施した。また、中学生が月1回あいさつ運動に参加し交流を図った。いじめゼロ強調月間では、委員を中心に、いじめゼロ集会を企画運営し、全校生が仲間であることを実感できる活動を行った。 【次年度の方針】 いじめの早期発見、早期解決のため、教育相談に合わせて年2回、学校生活アンケートを継続して実施する。相手を思いやる気持ちを育てる取組の推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。また、いじめゼロ強調月間には、兄弟学年でのなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取組を推進する。 更に、普段の生活の中で定着を図るためにあいさつ運動の方法を見直し、改善していきたい。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】① 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答90%以上 【数値指標】② 全体アンケート「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	①朝の学習の時間には、国語や算数を中心に、プリントやドリルを活用することで、基礎基本の定着に全校体制で取り組む。 ②児童理解を深めるため、年2回、6月と11月に教育相談週間を設定し、豊かな人間関係の醸成に努める。	B	【達成状況】 ①児童の肯定的回答は95.2%で、数値指標を達成した。6月と12月に実施した教育相談には、Q-Uアンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果など十分活用することができた。 ②保護者の肯定的回答は90.3%で、数値指標を達成した。共通理解をもとに学習指導を行ったり児童の学校での様子を伝えるときにはよいところを伝えたりすることができた。 【次年度の方針】 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。朝の学習の時間には、国語や算数を中心にプリントやドリルを計画的に活用した繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら学習時間を確保し全校体制で取り組むことで、基礎・基本の定着を図る。

学校運営の状況	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童の実態をもとに生活目標を洗い出し、重点化を図る。教職員間での生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童にきまりやマナーなどを指導していく。 ②児童が自分の生活の様子をふり返る場や、きまりを守って生活している児童が賞賛される機会を意図的に設定したり、宮っ子心の教育表彰を生かしたりしてきまりやマナーの意識を高める。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は74.0%で、数値指標を下回った。教職員、保護者は80%以上の評価をしている。 本校の「生活のきまり」をもとに、全職員共通理解のもと指導を行ってきた。 【次年度の方針】 教職員間で週生活目標に対する共通理解を深めきまりやマナーの指導を徹底したり、週目標とは別に児童の様子によって月の重点項目を設定したりして、きまりを守ろうとする意欲を喚起する。また宮っ子心の教育表彰を生かし、良いところを認める機会を増やしていく。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①きめ細かな指導の充実のため、児童の実態や授業内容に合わせてT、Tや習熟度別学習を実施する等、多くの学年・教科で指導形態の工夫を図る。 ②学力向上を図るため、授業研究を重ね指導の工夫改善に取り組む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は92.0%で、数値指標を達成した。4年・5年・6年で習熟度別の授業を行い、きめ細やかな指導をすることで、一人一人により確かな学力を身に付けることができた。教職員は、学校全体で共通理解を図りながら授業研究や教材研究を行い、児童が自分の考えを持ち、友達に自分の考えを伝え合い深め合いながら学習を進められるような指導の工夫を行い、学力向上に努めた。 【次年度の方針】 きめ細かな指導の充実を図るため、児童の実態や授業内容に合わせて習熟度別学習や、指導形態の工夫をさらに進めていく。授業研究会を実施し、学校全体で共通理解を図り、指導の工夫改善を行うことで、学力向上につなげていく。
	A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①委員会等による「いじめゼロ集会」の実施や「いじめゼロシール」により、いじめ根絶への意識の高揚を図る。 ②5, 10, 1月に実施する「学校生活アンケート」や6, 11月に実施する教育相談並びにQ-Uの結果等を活用し、児童の変化を見逃さず、いじめの早期発見、早期解決に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は95.1%で、数値目標を達成した。いじめゼロ集会でいじめにつながり得る具体的な場面を提示し、望ましい言動を考えさせることで意識を高めることができた。また、学校生活アンケートやQ-Uを実施することで、教育相談週間以外にも児童の声に耳を傾けながら問題の早期発見に努め、迅速に組織的に対応した。 【次年度の方針】 道徳や学級活動、いじめゼロ集会、その他あらゆる機会にいじめは許されない行為であることを考えさせ、意識付けていく。教育相談や学校生活アンケート等においていじめに気付いたときは、いじめ等対策委員会を最優先で開催し、教職員共通理解のもと早期解決に努める。
	A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている」⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	協調性や思いやり、勤労意欲などを養うため、農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を積極的に推進する。	B 【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答はそれぞれ95.4%・85.7%で、数値指標を達成した。上級生、下級生がそれぞれに協力し合う活動を通して、高学年としての自覚が生まれたり年長者を尊ぼうとする意識が生まれたりした。また、お互いに思いやり、協力しようとする心情が育った。 【次年度の方針】 感謝の心、協調性や思いやりや勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割り班活動などの体験活動を実施する。 水曜日のロング昼休みの時間を活用して、学級活動の充実を図る。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 以上	授業参観やオープンスクールを実施するとともに、「学校だより」「学校ホームページ」により情報を発信する。	【達成状況】 保護者の肯定回答は93.7%で、数値指標を達成した。ホームページで、学校だよりや学年だよりなどを定期的に内容を更新し、積極的に情報を発信した。 【次年度の方針】 本年度と同様に授業参観、オープンスクールを年5回、月に1度保護者と関わる行事等を実施し、情報を発信する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】① 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 以上 【数値指標】② 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答 80% 以上	①授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう、各種便りや連絡帳等を活用して情報を発信する。 ②地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。	【達成状況】 ①保護者の肯定回答は90.5%で、数値指標を達成した。各種たよりで保護者や地域の方への参加を促した。また、学校の様子などをホームページでも公開した。 ②教職員の肯定回答は95.5%で、数値指標を達成した。読書ボランティアや水泳ボランティア、農園ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育効果を上げることができた。地域協議会やPTAと連携し、児童の安全面の確保や学習面の充実が図れた。 【次年度の方針】 授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう各種たよりや連絡帳等で情報を発信する。 地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。更に、活動内容を「ボランティアだより」として紹介し、活動への理解を深める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品などが整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 以上	①落ち着いた学校生活を送るために校内環境の在り方について、児童の視点から検討し、学校環境の整備・充実を図る。(校内掲示計画、教室掲示) ②清掃や整理・整頓について学級活動などの時間に話し合ったり、清掃時には、教職員が協働の姿勢を示したりして、環境美化に努める。また、机やロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしようとする態度を育てる。(清掃の手順、ロッカー・廊下のフック、靴箱の使い方等の掲示物の活用)	【達成状況】 保護者の肯定的回答は89.1%で、数値指標を達成した。 校内掲示計画に添い、計画的に教室や廊下等の学習環境を整備することができた。また、教科毎に資料室の備品整理もできた。 学級活動や生活指導により、清掃や身近なところの整理・整頓をしようとする態度が育ってきているが、個人差が見られる。 【次年度の方針】 児童の視点から落ち着いた学校生活を送るために校内環境の在り方について見直し、さらに学校環境の整備・充実を図る。 児童が自主的に環境の美化活動に取り組む態度が育つよう、学級活動などの時間に話し合ったり、模範的な活動を称賛したりして、環境美化に努める。また、机やロッカー等の整頓の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしようとする態度を育てよう努める。

	B 1 教職員は学校の研究課題に関する研究に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、教職員が互いに指導力向上に取り組む、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①授業の中に様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努める。 ②保護者や地域住民へ授業参観や学年だより等で児童の学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は85.0%で、数値指標を達成した。 授業の中で様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いに学び合いを深め合える学習の実践に努めるとともに、その実践のための研修を行ってきた。 保護者や地域住民へ授業参観や学年だより、学校だより等で児童の学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努めてきた。 【次年度の方針】 授業の中に様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践や研修に努める。 保護者や地域住民へ授業参観や学年だより学校だより等で児童の学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。
教育活動の状況	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	○児童会の計画委員会を主体とし、全学級ローテーションのあいさつ運動に加え、あいさつ名人の認定をしたり、あいさつ広め隊の活動を活性化させたりする。若松原地域学校園として小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は84.5%で、数値指標を達成した。児童会を主体とし、全学級によるあいさつ運動を継続的に行ったり、「あいさつ広め隊」を結成しあいさつを呼び掛けたりした。生活目標にも適宜あいさつについて取り入れ、校内放送や学級での指導を行い、意識付けを図った。地域学校園としても小中連携し、WGSあいさつ運動を展開した。 【次年度の方針】 児童の肯定的回答は数値指標を上回ったが保護者や地域住民は80%を下回っていることから、あいさつ名人をさらに認定することで児童を認め、学校外でも積極的にあいさつのできる児童を増やしていく。また朝のあいさつ運動のほか、あいさつ週間にはポスターや幟を昇降口等に設置することで、さらに意識を高めていく。
	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	言葉づかいについて、日常的に指導を繰り返すことに加え、朝の会・学級活動・会話科・道徳・わくわくタイム等で、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターで発達の段階に応じた具体的な言葉遣いの指導を行う。また、家庭にも学年・学級懇談などを通して、正しい言葉づかいができるよう、協力を呼び掛ける。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答は57.1%で数値指標を下回った。各学級での継続的な指導をしたり生活目標にも取り入れたたりしながら、正しい言葉づかいができるよう意識付けを図った。 【次年度の方針】 日常的にその場での指導を繰り返し行い、身に付けさせていくとともに、週生活目標に重点項目として言葉づかいについての目標を設定し、指導を徹底していく。また学級活動や会話科等でのスキルトレーニング、国語科の学習等を通して、人と人との距離感や、様々な場面での言葉の使い方等を指導していく。懇談会等を通じて家庭にも協力を働きかける。
	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	「すくすくカレンダー」の活用について家庭への周知を図るとともに、本校独自の「プチトレ」「家トレ」の奨励を継続して行う。また、若松原地域学校園で統一した検定表などを活用することで、児童の運動習慣がスムーズに中学校での取組に繋がるよう支援していく。そのためにジャンピングボード・一輪車・投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具の整備もしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は88.2%で、数値指標を達成した。教職員・保護者・児童の肯定的回答も昨年度同様高い割合を得られた。しかし、運動を好む児童とそうでない児童との2極化が見られることが、今後の課題である。 【次年度の方針】 体育部や運動委員会を中心に、休み時間における「体力づくり」を行い、児童の運動への意欲を高めた。また、新体力テストの結果をふまえて、体育の授業や「プチトレ」の改善を図りたい。

学 習	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	「お弁当の日」や「校内給食週間」、若松原地域学校園統一の「食育ファイル」等で家庭との連携を推進する。食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や栄養教諭と協力して継続・実施していく。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は、76.6%で、数値指標を下回った。しかし、児童の肯定的回答は昨年を上回り、82.3%だった。保護者の質問項目に「子どもは好き嫌いなく食事している」とあったため、給食に限定して回答した児童と保護者との間で質問のとりえ方にずれが生じたのではないかと推察される。 【次年度の方針】 「お弁当の日」、「校内給食週間」等の行事に児童・教職員ともに積極的に参加している。養護教諭や栄養教諭とのＴＴでの授業をこれまで以上に積極的に取り入れていきたい。さらに、食育だよりや学校ホームページを活用し、児童の給食の様子やレシピを紹介するなど情報を発信し、食への理解を深めたい。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	学習活動の中に、児童同士が助け合い補い合う場面や高め合う場面を取り入れることで、児童の能動的に学ぶ姿勢が一人一人の成就感につながるようにしていく。この取組を通して、児童の学習への積極性を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.3%で、数値指標を達成した。学び合いの学習を取り入れていることにより、児童が自分の考えを持ち、友達と進んで話し合いながら学習に取り組むことができた。 【次年度の方針】 これまで実践してきた「学び合い」をさらに充実させる。特に、「学び合い」の中から児童が新たな課題を発見・追及する学習を取り入れ、児童の達成感・満足感・成就感を高めることによって、学習への積極性を育てる。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①基本的な学習のきまりについて、掲示物を活用して児童への意識付けを図るとともに、学期始めや長期休業終了時には、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、児童と共通認識を持ち学習に向かう環境を整える。 ②個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的に持ち、各担当者間で連携して指導に当たる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は、75.7%で、数値指標を下回った。授業参観やオープンスクールでの児童の様子、日常の様子などから、落ち着きに欠けていると捉えているように考える。 【次年度の方針】 学習のきまりを全教職員で再確認するとともに、学校での指導内容を懇談会等で保護者に説明し、協力を依頼する。児童にも、折に触れ、望ましい学習習慣について考えるように指導していく。さらに、すすくすカレンダーの活用を図っていく。 個別の支援が必要な場合は、校内の組織を活用し、全校体制で取り組み、改善を図っていく。
	B2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、学校でだれとでも協力して生活している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	各教科や道徳で生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、「私たちの道徳」を活用し、家庭と連携を図る。また、「わくわくタイム」（縦割り班による活動）でたくさんの友達と触れ合えるようなゲームや遊びを取り入れる。更に、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」の呼び掛けを行い、多くの児童が紹介されるようにする。これら具体策を実施し、児童自身が他の人のために役立っているという意識（自己有用感）を高めるとともに、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は85.1%で、数値指標を下回った。 清掃活動では、今年度から縦割り班清掃を取り入れ、高学年を中心に協力し合って活動する場を設けた。また、「わくわくタイム」（縦割り班による活動）を実施し、異学年間で互いの良さを見つけ、互いに協力し合って活動しようとする意欲の向上に努めたが、個人差がみられる。 【次年度の方針】 引き続き、道徳教育や人権教育の充実を図るとともに、特別活動の活動内容を見直ししながら、児童会活動や縦割り班活動がより児童の主体的な活動となるよう工夫していきたい。 委員会活動や学級活動において、児童による自治的な活動を実践し、児童の良さを生かしてみんなに認められる場を意図的に設定していく。

本校の特色・課題等	B3 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	①交通指導員や登校・下校ボランティア・地域の見守り隊の方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。 ②校内の掲示物や学校だより等であいさつに取り組む様子を地域や保護者に知らせるとともに、家庭でもあいさつをする機会を多く持つように啓発を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は85.9%で、数値指標を達成した。しかし、地域住民の回答は71.4%と低かった。 【次年度の方針】 交通指導員や登校・下校ボランティア・地域の見守り隊の方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。 校内の掲示物や学校だより等であいさつに取り組む様子を地域や保護者に知らせるとともに、家庭でもあいさつをする機会を多くもつように啓発を図る。校内のあいさつ運動に、地域の方々にも参加していただく機会を設け、地域と連携したあいさつ運動を推進していく。
	B4 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、読書や調べる勉強などで一月に20冊以上本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	①始業時刻前に図書館を開館し、利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を毎日位置付け、読書の推進に努める。 ②家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルの本に親しませ、読書指導の充実を図る。 ③○若松原学校園で連携を図って読書意欲を向上させる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は、71.2%で、数値指標を下回った。高学年になるにつれ、厚い本を読むようになるので、一月に20冊読み切るのは難しいと考えられる。 教職員肯定回答は100%、保護者93.7%で数値指標の90%に達している。また、全体の図書館の貸出冊数をみると前年度に比べ8%ほど伸びている。 「朝の図書館開放」「毎日の朝の読書の時間の確保」により、読書のリズムが定着してきて静かに読書している様子が見られる。読み聞かせボランティアの方々や親しむ機会が多かったことや司書によるブックトーク等の実施も、児童の読書意欲の向上に効果的であり、本好きの児童が育っていると考えられる。 【次年度の方針】 全体の図書館の貸出冊数をみると前年度に比べ8%ほど伸びていることから、引き続き、朝の図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を充実させ、読書の推進に努める。 また、家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。 更に高学年への働きかけを強化したり、若松原中学校を中心として、若松原学校園でも協力して読書活動の推進に力を入れたりしていく。
	B5 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケート「私は縦割り班活動で多くの友達と楽しく活動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。活動の前に手をつないで輪になり、活動内容を共有する場を設けるなど、中学年や低学年の児童にも、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場とする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は87.9%で、数値指標を達成した。教職員、保護者、地域住民の回答は、90%を上回った。 わくわくタイムや児童集会、ボランティア活動などの縦割り班活動を実施することで異学年の交流を深めることができた。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、児童の人間関係力向上のため、縦割り班活動を通して異学年交流の機会を設けていく。わくわくタイム、児童集会、ボランティア活動などを継続して実施する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

各項目の数値指標としたアンケートの肯定的回答は、昨年度に比較し割合が減少しているものが多い。ただし、数ポイントの減少であるものがほとんどであり、全体的な傾向は昨年度同様ととらえることができる。

＜教育全体の状況について＞

- ・ 数値指標を達成できなかった項目もあるが、アンケートへの肯定的回答はすべて9割を超えており、概ね適当ととらえることができる。

＜学校運営の状況について＞

- ・ 数値指標を下回ったのはA3「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」のみであり、概ね適当ととらえることができる。

＜教育活動の状況について＞

- ・ A11「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」、A13「児童は栄養のバランスを考えて食事をしている」、A15「児童は落ち着いて学習に取り組んでいる」、B2「望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している」で数値指標を下回った。次年度に向けてそれぞれの取組について見直し・改善を図る必要がある。

＜本校の特色・課題等について＞

- ・ 3項目中2項目は数値指標を達成した。B4「教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している」については、児童の肯定的回答が数値指標を大きく下回った。教職員・保護者・地域住民へのアンケートの肯定的回答はいずれも8割を超えていることや、本校図書館の貸出冊数自体は前年度に比べ増加していることから、取組自体は適当ととらえることができる。

6 学校関係者評価

- ・ 教職員、保護者、地域住民、児童で共通認識がとれているかが大切だと思う。4者で認識にかい離がある項目についてもう少し強化していく必要があるのではと感じた。
- ・ 児童が「授業と生活のきまりやマナーを守って生活する」ことや、「時と場に応じた言葉づかいをする」ことは、家庭の協力が必須である。保護者や地域の理解を深めるために、今後も具体的に学校の取組を発信して行ってほしい。
- ・ いじめ対策の部分の保護者の評価が下がっていることが気になるが、全体的には穏やかでよい学校だと感じている。
- ・ 学校へ行くと、以前より児童があいさつをしてくれるようになっていてうれしく感じている。
- ・ 大きな声であいさつを交わしたときに子どもたちから元気をもらう。大きな声を出す習慣やそのための訓練も必要なのではないか。
- ・ 全体的には学校の取組がおおむね良好に推移しているのではないかとと思われる。
- ・ 学校はきめ細やかな対応をしていると思う。
- ・ 自己肯定感が育てば相手を思いやる気持ちも育ち、決まりが守れ、学力も高まるのではないと思う。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校教育目標の具現化のためにさまざまな取組を行ってきたが、「教育全体の状況」、「学校運営」、「教育活動」、「特色・課題」の項目すべてにおいて、一定の評価は得られたととらえている。一方、課題があると考えられる項目については、「教職員」、「保護者」、「地域住民」がその状況をしっかりと共有し、それぞれの立場からの取組を充実させていく必要があると考える。加えて、アンケート項目によっては、「保護者」、「地域住民」から「判断できない」という回答の割合が多いものもある。そこで、引き続き各種たよりや学校ホームページの更新、オープンスクールでの学校公開などさまざまな方法・機会を通して、積極的に情報発信していくとともに、発信する情報の内容をより具体的なものにするなどの工夫をしていきたい。

また、これまでの取組を継続したりさらに充実させたりしていくことはもちろんであるが、児童が様々な活動を行う中で、自己肯定感や自己有用感を高め、自分の行動や考えに自信が持てるよう「よさを認めてほめて伸ばす」ことに、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいきたいと考える。